

## 8 キャリア教育

### 1 キャリア教育の必要性

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されている。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は、大きくまた急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。

このような時代の中でも、児童生徒一人ひとりが、社会の変化に受け身で対応するのではなく主体的に向き合っており、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、児童生徒の生きる力を育むことが目指されている。

こうしたことから、児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の推進が求められている。平成29年3月告示の小学校及び中学校学習指導要領、平成30年3月告示の高等学校学習指導要領の総則でも、改めて「キャリア教育」という言葉を用いて教育課程全体でその充実を図ることが明示された。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」では次のように「キャリア教育」を定義するとともに、その意義を3点に整理している。

#### ■「キャリア教育」の定義

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

#### ○「キャリア」とは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだし、ていく連なりや積み重ね。

#### ○「キャリア発達」とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。

#### ■キャリア教育の意義

- (1) 教職員に教育の理念と進むべき方向が共有されると共に、教育課程の改善が促進される。
- (2) 学校教育が目指す全人的成長・発達を促すことができる。
- (3) 学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結びつける実践により、児童生徒の学習意欲を喚起することの大切さが確認できるとともに、取組を進めることを通じて、学校教育が抱える様々な課題への対処に活路を開くことにつながる。

キャリア教育は、児童生徒がキャリアを形成していくために必要な資質・能力の育成を目的とする教育的働きかけである。自分が自分らしく生きるために、「学び続けたい」「よりよい社会を創りたい」と願い、それを実現しようとする姿がキャリア教育の目指す児童生徒の姿である。このような児童生徒の資質・能力を育成するため、就学前から高等学校に至る系統的・組織的なキャリア教育の充実が必要である。

## 2 キャリア教育と職業教育

従来から取り組まれてきた「職業教育」は、そのねらいや目的、内容の点で「キャリア教育」との関係は深い。一方で、キャリア教育としての取組が、職業に関する理解を目的とした活動だけにとどまり、児童生徒一人ひとりが自らの在り方生き方を考える内容になっていなかったり、本来のキャリア教育（本質的な系統的な進路指導）と狭義の意味での「進路指導」とが混同されていたりする例も見受けられることから、先の中央教育審議会では、キャリア教育と職業教育の関係を次のように整理している。

[キャリア教育と職業教育]

|       | キャリア教育                                  | 職業教育   |
|-------|---|--|
| 育成する力 | 一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度        | 一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度  |
| 教育活動  | 普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施される。職業教育も含まれる。 | 具体の職業に関する教育を通して行われる。この教育は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上でも、極めて有効である。 |

## 3 キャリア教育の推進

キャリア教育を推進していくためには、各学校段階で、キャリア教育に関する方針を明確にし、特別活動を要としつつ教育活動全体を通じて取り組むよう、教育課程へ適切に位置付けることが重要である。その中で、他者との人間関係の形成のために必要な資質・能力を身に付けたり、社会での課題を解決するために必要な資質・能力を身に付けたりする学習の場や機会を積極的に設けることが必要であるため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確にする観点から小・中・高等学校を通じて、学級活動・ホームルーム活動に（3）「一人ひとりのキャリア形成と自己実現」を位置づける。あわせて「キャリア・パスポート」について、特別活動を中心としつつ各教科・科目等と往還しながら活用をすすめる。

各学校段階においてキャリア教育を推進する際のポイントは、次のとおりである。

### (1) 小学校

- ① 社会の中での自らの役割や、働くこと、夢をもつことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心の形成など、キャリア教育を通じた社会性、自主性・自立性、関心・意欲等の涵養が重要である。
- ② 各教科・道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動や日常生活のそれぞれにおいて、例えば児童会活動や当番活動など学校内での活動や、地域の探検や家族・身近な人の仕事調べ、商店街での職場見学などの地域社会と関わる活動などを通じて、「働くこと」の意義を理解することや、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」を理解し行動することで、学ぶ意欲につなげることなどが必要である。

### (2) 中学校

- ① 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である。
- ② 各学校においては、キャリア教育の視点で、各教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動や学校

生活におけるそれぞれの活動を体系的に位置付けることにより、資質・能力の効果的な育成を図ることが必要である。

- ③ 職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に向き合うことが中心的な課題となる。その際、現在ほぼ全ての公立中学校で実施されている状況やそれによる課題を踏まえると、活動の効果をより引き出すために事前・事後の学習の充実を図ったり、円滑に実施するための条件を整備したりすることが必要である。

### (3) 高等学校

- ① 生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な資質・能力の育成と、生徒一人ひとりが自分なりの勤労観・職業観等の価値観を形成・確立していく過程への指導・支援をどのように行うかが重要である。そのためにも、学科や卒業後の進路を問わず、社会・職業の現実的理解を深めることや、自分が将来どのように社会に参画していくかを考える教育活動などに重点を置くことが必要である。中でも、専門学科等を中心として行われる職業教育は、専門的な知識、技能、能力や態度を育成するとともに、新たな職業や知識・技術の高度化に対応した教育を行うことにより、自己の将来の可能性を広げていくことができるという面からもその重要性が高い。このため、職業教育の内容の充実が求められているが、その際には、社会的・職業的自立に必要な基盤となる資質・能力を育てるとともに、卒業後それぞれの職業に就き、地域の産業・社会を担う人材を育成するためのキャリア教育を推進することが必要である。
- ② 総合的な探究の時間（その代替としての課題研究等を含む）においては「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育成すること」が目指されており、課題の設定についても、「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見すること」が重要であるため、この時間での学習を充実させることが、キャリア教育にもつながることを意識することが大切である。

### (4) 特別支援学校（特別支援学級を含む）

障がいのある児童生徒には、自立と社会参加を目指し、持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために適切な指導及び必要な支援を行うことが必要である。自立と社会参加を目指す上では、職場体験活動や進路学習など職業教育の充実を図ることが重要である。また、学習活動全体にキャリア教育の視点を取り入れた授業展開をし、一人ひとりのキャリア発達を促すことで、個々の児童生徒の自立と社会参加に必要な能力や態度を効果的に育成することができる。そのためにもキャリア教育のさらなる充実が必要である。

【参考資料】 「キャリア教育の手引き」等、キャリア教育に係る国や県の通知・資料などをまとめている。校内のキャリア教育推進の参考資料として活用されたい。



(EIOS の該当ページにリンク)